クローズアップ

ペットとの暮らしを支える皆さん

昭和51年に緑区鴨居で開業されて以来、長年にわたり地域の動物病院として多くの飼い主さんから信頼を寄せられている、緑区獣医師会　おくだ動物病院院長　越久田健（おくだけん）先生にお話を伺いました。

開業当時のこと

鴨居に建設中のおくだ動物病院

最初に開業したのはもう少し竹山団地に近いところ。そこで3年やって、今の場所に移りました。当時、動物病院の周りは更地とか畑ばっかりで、横浜線の鴨居駅前周辺の街並みに商店街が集中していて、少し離れると竹山団地と笹山団地、そして古くからの住宅と新しい一戸建ての住宅地域があった。

この辺りは静かで緑も多く、人が住む環境としてすごくよい場所だと感じて、将来的に家が増えて人が多く住む町になるかなと思って現在の場所に住むことになった。

当時の緑区に、動物病院の数は多くなかった。犬・猫など小動物だけを対象とした動物病院をやっている先生はまだ少なくて、牛や豚も診ている先生が多かったようだね。

緑区のペットの移り変わり

開業当時は牛や豚を飼っている場所もあったようで、印象に残っているのは「牛がお腹を壊しているから薬がほしい」と訪ねてきた人がいたことかな。

ペットは犬が多く猫は少なかった。この頃は団地では犬・猫は飼えなくて、小鳥を飼っている人が多かった。あとモルモット、ハムスターとか。

犬は、広い家が多かったから敷地内で自由に放して番犬として飼っていることが多かった。犬種は柴犬や雑種が多かった。猟をやる人もいて、ポインターとかセッターを飼っている人もいた。

昔は動物に対しては病気の予防という考え方がまだ少なくて、病気がかなりひどくなってから連れてくるような飼い主さんも多かった。

今では、犬と猫の数が半々か猫の方が多くなってきた。うさぎも多くなったね。犬は番犬の役割は少なくなって、室内で飼いやすい小型犬が多くなってきている。大型犬でも室内で飼うことが多くなったね。

昔も今も飼い主がペットをかわいがることは変わらないけど、ただ単に飼っているという時代から、今は家族の一員という時代になったね。だから、飼い主は医療費をかけるし、予防もしっかりやるようになったようだ。

ペットと暮らすこれからの緑区

緑区は、散歩できるところが多いよね。緑が多いし、公園も多くある。鶴見川沿いとか、四季の森公園とか歩道も広くできているしね。さらに環境整備がすすむといいね。人も動物も植物も一緒にという自然との共存、それは大切なことかなって思う。

それと、集合住宅も含めてどこでもペットが飼えるような環境が広がるといいね。そのためには飼い主がしっかりしつけをし、社会のルール、マナーを守らないといけないね。

動物を飼うことは子供のためにはすごくいいと思う。動物を飼うと愛情を与えるっていうことを覚えるんだよね。一緒に叱られて仲間意識ができたりね。動物が死んじゃうってこと、そういう生とか死とかっていうものを近くで見て感じることも大切だと思う。

あとは、自分で面倒がみられる範囲の数で飼うこと。例えば、災害時に避難するときに連れていける数までにするとかね。それが徹底されていけばいいな。飼い主同士もコミュニケーションを取って、ペットも社会性を身につければ、避難するときにも絶対楽だと思うんだよ。そういう広がりができてくればもっと飼いやすくなってくると思うよ。